

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471400226		
法人名	有限会社庄司ケアサポート		
事業所名	グループホーム日和		
所在地	宮城県東松島市赤井字台94		
自己評価作成日	平成 23年 11月 4日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム日和の理念は優しさ・気配り・思いやり、開設当初より本人が安心して暮らしやすい環境と、いつ家族様が来所されても自然にその中にとけ込めるような雰囲気作り、医療機関にも協力いただき電話のやり取り往診等又今回の震災では入居者様の人災もなく地域住民ともお互い助け合い協力し乗り越えられました、これからもひとり一人の気持ちを大切に最後まで自分らしさを大切に生かせるよう精一杯の支援を志します
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別の利用目的で購入した土地に建てられた、1ユニットのグループホームである。開設して8年、地域に溶け込み支えられるのみではなく、独居やふたり暮らしの高齢者家庭への見守りや支援など理念に沿って地域資源としての役割も果たしている。前回目標達成計画に掲げた「重度化、終末期に向けた支援」は指針作成、医療連携にも取り組み、家族もホームで最後まで暮らし続けられることで安心している。今回の訪問では運営者も同席されたが、管理者によれば家族も同席を希望されたとのことで、運営者、家族、職員の協働の姿勢も如実にうかがえ、家庭的で落ち着いた雰囲気と共に入居者にあくまで優しいホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム日和)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の生活の中で自分たちが掲げた理念を心に置き支援することで入居者様が安心して暮らせ、又今回の震災では地域、家族、近隣の皆様に大変助けて頂きました	「優しさ、気配り、思いやり」をホームの理念とし、会議の場で話し合い確認し合っている。介護とは何かを考え、優しさに勝るものはないことを全員で共有し、常に自らの心を平常に保ち支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入会し区長さん始め地元の方々とも交流を深め震災時互いに助け合った又10月の防災訓練等にも参加して頂いた	ホームの畑に地域の方が水やりしていた。榎えつけ、避難訓練への参加、会議への出席等日常の交流がある。近隣の独居やふたり暮らしの方への声掛けや差し入れ、介護相談の取り継ぎ等地域への優しい視線がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議などで介護方法の質問を受け、一緒に考え必要に応じ継続的に顔を出すなどし、震災時には独居の方を受け入れる等交流見守りさせて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年度初めの会議時、年間の計画書を提示しイベントなどは一緒に取り組み退居された家族様からも何時でも協力するからと声掛けあり、市町村も何かと来所され震災時には大変助けて頂いた	市担当者、包括職員、地域、家族等毎回10数名の参加であり、市の現状報告、家族の報告も常である。外出時の経費負担を家族が申し入れたり、ホームから研修棟の新設、和室改造の計画報告等活発な運営である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず参加協力頂き震災後も時折来所され、良好な関係を築いている(5月のみ震災のため開催出来なかった)又催し等にも声掛参加頂いている	市担当者は運営推進会議に参加し行政としての現状報告、助言等が毎回ある。ホームの現状把握や支援する姿勢があり、管理者も地域、一般からの相談を伝え、困りごとを相談し密に連携し協力し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の施錠を除いては、開設当初より鍵を掛けることせず、入居者様本人の気持ちを一番に優先し、自ら庭に出られ朝掃除を兼ね隣人と会話される様子見られる。	開設時から日中玄関への施錠はせず、畑への水遣り、朝掃除など自由に出入りしている。自宅が気にかかる等外出の多い方には一緒に楽しく歩き、時にはドライブで自宅訪問し、お茶を飲んで帰る事もあり、近隣との日頃の交流で拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ほぼ毎日の入浴時に身体の確認をし、管理者、職員のコミュニケーションを大切に虐待防止の会話を日々行い介護方法の工夫をしている又震災のため講習会等には参加出来なかった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年数を重ねてきたスタッフを始め、目標設定(介護福祉士、介護支援専門員等)し、それについてのアドバイスを個々の必要性に応じ随時行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分時間を取り説明し、理解納得され署名捺印頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新年会、敬老会には勿論、毎月の集金時には要望、希望等伺うようにしている。今回の震災で庭が使用出来ず、整備後は是非花壇作りしたいと申し出もあり綺麗にして頂きました	運営推進会議や誕生会、行事などへの参加もあり面会も多い。その都度様子を伝え、要望を聞いている。家族アンケートは全員から寄せられ、ホームのサービス提供や運営に感謝し、職員への気遣いの言葉が書かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	開設当初より代表者、管理者、職員で月一回のミーティングを行い日々の暮らしの気付きを大切に職員が意見提案し、リラックスした雰囲気の中出来るだ自由に話し合い行っている	日々のミーティングや会議で意見や気付きが話され、運営、サービスに反映している。歩行器使用でも状態を見て家族と相談して外す等変化の中で、成功例や失敗例を申し送り、一人ひとりに対応したケアにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全てのスタッフは目標を持ち介護福祉士を習得した物もあり今年も挑戦者がいる、又規模の小さい事業所では有るが、結婚、出産、育児休暇等も検討し十分な職場環境、条件の設備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひとり一人の個性を把握しそれぞれに見合った声掛け採用時自らの目標設定を確認、機会を作り研修等にも参加を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村の取り組みで勉強会等で交流を深めつつあったが、今回の震災で被災の規模大きく思うように向上する事出来ず、自らの事業所を守ることで精一杯だった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっつくりと時間を掛け傾聴することで本人の思いをくみ取るよう努めた		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に何度かお会いしてじっくりと時間を掛要望など確認するよう努めた		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来所した段階でその時の必要性を話し合い対応支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般共に協力し合い、時には支えたり支えられたり関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今回の震災で様々な形でホームで生活を強いられた家族様から一緒にいらっれ安心又協力も出来た事が良かった地域住民の皆様と共に協力しあい互いに支え合える関係が深まった		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	震災後、今までの馴染みの場所、人、大切にしていたものほとんど失う事となった、9月納車から少しずつ移動可能となり時には自宅付近まで行き近隣の方に出会い会話し喜んで帰宅される、など本人に合わせた支援行っている	正月を一緒に過ごす為自宅に帰る方や、遠方の家族はホテルで一緒に過ごすなどその人に合った馴染み支援である。また、家族との外食時にはエプロン、はさみ、ハット等を持参してもらうなど細部にも気配りし支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士支え合う関係が日々見受けられ、夜は特にテレビを見ながらお互いの病んでいる所を気遣う仕草多くある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居なされた家族様より何か必要があったら協力するからとお話もありその後の様子等も伺い出来ることは支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プランを立てる段階から希望、意向の把握に努め、ケアマネジメントする上でも家族本人と良く話し合い傾聴し本人本意になるよう検討している	毎日の関わりを通して言葉で表現できなくとも入居者の思い、望みは行動や表情で伝わると職員らは話しており、淋しそうに感じたら近くに寄り添い、何処かに行きたいと云われれば近くのコンビニに行くなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	震災のダメージ大きく、馴染みのものを余りにも多く失い聴かれても本人に話すことすら出来ず、どうにか立て直せるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合った生活の工夫に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一度の介護計画作成時点で日頃からの本人、家族の思い要望の把握に努め困難な時には地域包括等にも相談支援いただいている	現状入居者の身体状況に変化は少ない。毎月家族の意向、希望を聞き、本人が目標とする台所に立ちたい思いや、このまま健康で長生きして欲しい家族の思いを受け止め寝たきりせず心身の活性化を探り作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の変化を見過ごさず個別に対する工夫をし職員間で話し合い反映させ又介護計画の見直しにも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとり一人又その時々家族の状況に合わせ柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練時地域の方の協力を頂き行ったり、一人で庭に出て花に水をやったり静かにゆったり暮らしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かり付け医と協力し緊急時には往診して頂き又早々に家族にも連絡状況に合わせ総合病院等に紹介頂き対応している	入居者全員が近所の協力医をかかりつけ医としており、24時間の支援体制が得られている。管理者が看護師であり、日中顔色、様子ははかり変化に対応している。受診の際は家族も一緒に行き状況把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者のバイタルサインを欠かさず行う事により、その日の体調不良の早期発見に努め状況に合わせ対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良の早期発見することにより掛かり付け医と情報交換し合い早々に総合HP入院し体調良好となり退院され元気に生活を再開されている方もいる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	長期入居されている方も多いため毎月の集金時現在の体調に付いてと今後の事も踏まえ随時話し合っている又以前ホームでも看取りを経験している	家族は職員間のチェック、申し送りによる日中、夜間を通した連携を信頼し、最後までホームでの暮らしができることで安心している。前回の外部評価以後管理者、職員等は医療体制作りに努力し重度化、終末期に向けた支援に取り組み、家族の満足につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生マニュアルを常備しスタッフ全員で確認し合っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今回の震災で様々な形で家族様ならず地域住民の皆様と共に協力互いに支え合える関係を築け10月の防災訓練にもスタッフは勿論近隣の参加協力頂いた	出火原因を変え、避難方法を工夫しながら夜間想定で避難訓練を実施し、近隣、家族の参加も得ている。ネットで備蓄用品のリストをチェック確認し、キャスター付きの手作り台での避難では運営者、管理者も体験し試している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時に本人の呼び名の確認行いトイレ誘導などにも十分小声での対応を心がけ会話時のトーンスピードにも注意し個々の人格を尊重し対応している、	個人記録記入の際はイニシャルで記入し、入居者への言葉遣いには「やっってもらっていいですか」など年長者への敬意をもって声掛けしている。入居者への対応等で気になった時はその場で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事等行う上でも入居者様と日々会話しその中からそれぞれの思いや、希望の把握に心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急な思いつきなどにも出来るだけ対応個々のペースに合わせている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を優先し時には自ら着替えさせ、外出時には特に気配りし化粧もしっかりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方は勿論、個々に合った協力をして頂き共に準備調理している又近所の百円野菜等をゆっくり散歩しながら買い物に行ったりしている	樽を見れば手馴れた手つきで漬物を作ってくれる。ゆで卵の殻むき、干し柿作りとできることをお願いし「ありがとう」の声は欠かさない。食事時も介助を交替しながら職員も共に食事し会話の絶えない、ゆったりと楽しい時間である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師を中心に一ヶ月の献立を利用者様と共に作成し一日の水分量も量っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回の食事後の口腔ケアは欠かさず行っている特に口臭の強い方には洗口液等で対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時リハビリパンツの方も、時間誘導行うことで日中綿パンツにパットと自立に向けた支援している	一人ひとりの排泄パターンを共有し、その人のサインを見逃さず自立排泄に努めている。タイミングを見ての誘導に努めながらも、本人の意向を第一に無理じいせず、食事前の声掛けや夜間の支援対応もそれぞれである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心に献立を工夫し、個々に合わせた軟食、きざみ、でほとんどの方が下剤服用減少され排泄されている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望を踏まえ声掛けし、ゆっくりスタッフと二人の時間を楽しみ入浴して頂いている	毎日の入浴や一番風呂等希望を聞き、ゆっくりとスタッフを独占しての楽しい入浴支援がうかがえる。肌の状態確認など大切な時間であると管理者は話し、足の機能維持を大切に足浴マッサージ、ソックスにも配慮がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の時間帯をゆっくり楽しまれ互いに気づかい談笑されその後「おさぎね」等と声掛けし昼夜逆転もなく皆さん休まれている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人の薬の副作用にも注意を払い、体調の変化の早期発見に努め変更時には日々の申し送りの時に一貫性をもち周知し支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	震災後思うような楽しみ方が減少するもイベント時(外食等)に都合の良い家族様に一緒に過ごすことができるか声掛け共に気分転換支援している、又家族様にも良かったと喜んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	震災後外出の機会が減少(車の水没)し庭に出ることすら出来ず、工業者も中々時間が取れず庭を全てアスファルトになるまで思うように行動出来なかった、が9月に入りようやく大型スーパーにも出掛けられるようになった	天気の日には車椅子の方も一緒に散歩、買い物など外出し、気分転換が図られ晴れ晴れと暮らす様子がアンケートからもうかがえる。ドライブで自宅訪問し気持ちを落ち着けたり、行事では遠方からの家族参加もあり、広い庭でのひなたぼっこ、お茶飲みを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さを個々に知っていて自己管理される方もおられ、自ら支払い等が出来る方もいらっしゃる個々の力に応じ対応支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	震災後認知症の進み強く字を書けていた方が書けなくなり電話でのスムーズな会話も困難傾向となってきている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除、不快無く清潔な空間を保ち、掲示物も四季折々で変化させている、又震災で壊れた物も多く有ったがようやく物も揃えられ物資で車いす等も頂き、少しずつでは有るが心地よく過ごせている	木材のぬくもりが感じられ、天井が高く明り取りや換気に配慮された広いホールで、入居者はホール投げやゲームを楽しんでいる。テレビの前のソファ等、ひとりの居場所作りにも工夫し、クリスマス、正月、節句と季節の飾りつけも入居者を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭を整地したのでその日の気分で庭等に出られ自分なりの工夫で移動されている又気の合う同士ソファに座り手を握り会話されたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時自宅で使用されていた物をほとんど持ち込むことにより居心地良く生活して頂いている	本人に馴染みの品の持ち込みを家族に相談し椅子、筆筒、テレビ等を置いている。ホームでは身体状況に合わせ、必要時にはキャッジヘッドに替えたり、手すりを複数取り付けたり支援し収納部も広くすっきりと清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の精神、身体状況の把握に努めし、混乱転倒なく安全の確保をしひとり一人の力をいかし意欲が出るよう声掛支援している		